

景 気 動 向 調 査

(第 150 回)

2008 年 4 月 ~ 6 月 期 実 績

2008 年 7 月 ~ 9 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1．県内景況感について	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 生産高または仕入高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5．経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

記

- 1．実施時期 2008年6月下旬～2008年7月上旬
- 2．調査対象期間 2008年4月～6月期実績
2008年7月～9月期予測
- 3．調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先 岩手県内企業 400社
- 5．回答数 214通（回答率 53.50％）
<内訳> 製造業 72社 建設業 49社 卸・小売業 93社
- 6．調査の主要項目 (1) 業況について
(2) 設備投資の動向について
(3) 資金繰りの状況について
(4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

～ 景況感は停滞状況鮮明に ～

2008年4～6月期の岩手県内企業の景況感DIは、全体で85.8と前期75.1より10.7ポイントほど下向きとなった。

3期連続して下向いてきた景況感は今期更に下向き、DIは21期振りに80台となるなど、持ち直しの動きが後退して停滞状況となっている。次期見通しでは景況感DIは僅かに上向きとなっているが、原油価格、原材料価格の上昇ほか、不安定要因も多くみられることから、今後の動向を注視していきたい。

項目別に前回調査時（2008年1～3月期実績）と比較してみると、前回、景況感以外の売上高、生産、収益、資金繰り等で上向いていた製造業が、今回は全て下向いており、下降幅も大きい。建設業も多くの項目で下向いており、卸・小売業では景況感DIが大きく下向き90台の水準となっている。来期の見通しでは、各業種で項目毎にバラツキがあることから、業種間の改善の動向が注目される。

国内経済をみると、輸出、生産はこのところ弱含みの動きとなっており、高水準を維持してきた企業収益も、原油、原材料価格の上昇等により下降に転じ、設備投資も増勢が鈍化している。企業倒産件数は緩やかな増加傾向にあり、公共投資は国・地方の財政状況を反映して引続き低調に推移している。また、雇用・所得環境にも改善に足踏みの状況がみられ、個人消費は横ばいの動きとなっている。全体的には緩やかな改善が続いてきた動きに、停滞傾向への転化が鮮明にみられる。

一方、最近の岩手県内経済をみると、公共投資、住宅建設とも前年を下回って推移しており、建設関連業種では厳しい業況が続いている。雇用情勢は有効求人倍率が低い水準で停滞しており、個人消費も依然として弱含みの動きとなっている。鉱工業生産は、電子部品・デバイス等でプラス基調を維持しているものの全体的には鈍化傾向がみられ、原油価格の高騰は運輸業界だけでなく漁業関連にも大きな影響を及ぼしている。このように岩手県内景気は、全体として弱めの動きとなっており、停滞の状況が強まっている。

< 参考 >

岩手県内企業「景況感DI」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感DI
1	第124回	01年10～12月	91.2
2	第109回	98年1～3月	90.6
3	第111回	98年7～9月	90.0
4	第108回	97年10～12月	89.7
5	第110回	98年4～6月	89.3

(1971(昭和46)年以降)

1. 県内景況感について

全体のD Iは、今回調査では4期連続下向きとなり、前期比10.7ポイント下降し85.8と80台の低い水準となっている。各業種別のD Iをみると、製造業は10.8ポイント、建設業が15.9ポイント、卸・小売業は7.7ポイント下降し、全業種で下向きとなっている。

7~9月期見通しでは、製造業が5.5ポイント、建設業が9.4ポイント、卸・小売業が8.9ポイント上向き見通しとなっている。

2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

D Iは、全体では15.2ポイント下向きとなっている。卸・小売業が2.6ポイント上向いているのに対し、製造業が47.3ポイントと大きく下向いており、建設業も2.2ポイント下向いている。

(2) 生産高または仕入高

製造業の生産高、卸・小売業の仕入高とも下向きとなっている。特に、製造業の生産高はプラスの水準だったものが大きく下向いている。

(3) 在庫

製造業の製品在庫は上向きとなっているが、卸・小売業の商品在庫は下向きとなった。在庫水準では、「適正」とする比率が、製造業では上昇しているのに対し、卸・小売業では下降している。

(4) 収益

製造業が14.8ポイント、建設業が10.3ポイント、卸・小売業が11.5ポイントと各々10ポイント以上下向いており、全体でも6期連続で下向きとなった。7~9月の見通しでは、卸・小売業だけが上向いている。

(5) 販売価格・仕入価格

D Iは、販売価格が上向きプラスの水準を維持しており、仕入価格も更に上向き50台後半の高い水準を維持している。

3. 設備投資の動向について

全体でみると設備投資を「実施した」企業は21.9%と上向いており、業種別でも、全業種で上向いている。

なお、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」「生産・販売能力の増加」「省力化・合理化」の比率が高くなっている。

4. 資金繰り状況について

全業種で下向いており、特に製造業が13.7ポイント大きく下向いている。来期の見通しについては、卸・小売業が横ばいで、他の業種は下向き予想となっている。

5. 経営上の問題点について

上位の項目に変わりはないが、「原材料・仕入価格高」が2期連続で2位となっている。製造業では「原材料・仕入価格高」が5期連続トップとなっており、建設業、卸・小売業では「過当競争」の比率が高くなっている。

1. 県内景況感について

～ 4期連続下向き ～

【4～6月期の実績】 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が0.5%（前期1.0%）、「悪い」が86.3%（同76.1%）で、DIは△85.8（同△75.1）と、10.7ポイント大きく下向いている。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が△77.5（同△66.7）、建設業が△85.4（同△69.5）、卸・小売業が△92.5（同△84.8）と全業種で下向いている。卸・小売業は△90台、建設業は△80台半ばの低い水準となっている。

【7～9月期の見通し】 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が3.4%、「悪くなる」が81.6%であることから、DIは△78.2となり、4～6月期実績と比較すると上向き見通しとなっている。

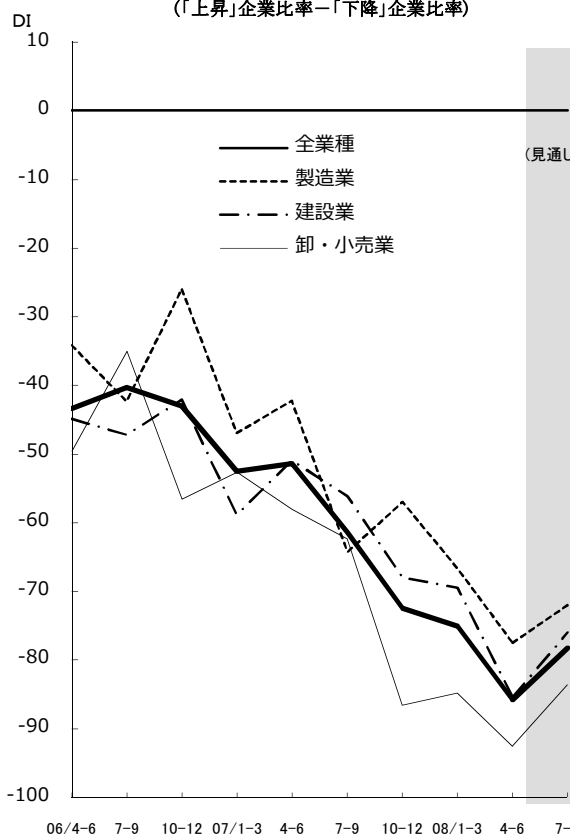
業種別にみると、製造業が△72.0、建設業が△76.0、卸・小売業が△83.6となっており、水準は低いものの各業種とも上向き見通しの回答結果だった。

県内景況感(前年同期比)

		（％）					
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	DI
全業種	4～6月 (実績)	0.0	0.5	13.2	46.7	39.6	-85.8
	7～9月 (見通し)	0.5	2.9	15.0	44.7	36.9	-78.2
（製造業）	4～6月 (実績)	0.0	1.4	19.7	42.3	36.6	-77.5
	7～9月 (見通し)	0.0	4.4	19.2	38.2	38.2	-72.0
（建設業）	4～6月 (実績)	0.0	0.0	14.6	50.0	35.4	-85.4
	7～9月 (見通し)	2.2	2.2	15.2	50.0	30.4	-76.0
（卸・小売業）	4～6月 (実績)	0.0	0.0	7.5	48.4	44.1	-92.5
	7～9月 (見通し)	0.0	2.2	12.0	46.7	39.1	-83.6

県内景況感(前年同期比)

（「上昇」企業比率-「下降」企業比率）



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～ 3期振りに下向く ～

[4～6月期の実績] 売上・実績(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」と答えた企業が25.3%(前期29.9%)、「減少」が57.0%(同46.4%)となり、DIは△31.7(同△16.5)と15.2ポイント下降し3期振りに下向きとなっている。

業種別にDIをみると、**製造業**△43.0(前期4.3)、**建設業**△14.4(同△12.2)、**卸・小売業**△32.2(同△34.8)となっており、卸・小売業が **か**だが上向きとなったのに **し**、製造業と建設業が下向いており、製造業は47.3ポイント大きく下降している。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」とみる企業が18.0%、「減少」が47.8%であることからDIは△29.8で、4～6月期実績と比較して1.9ポイント上向く見通しとなっている。

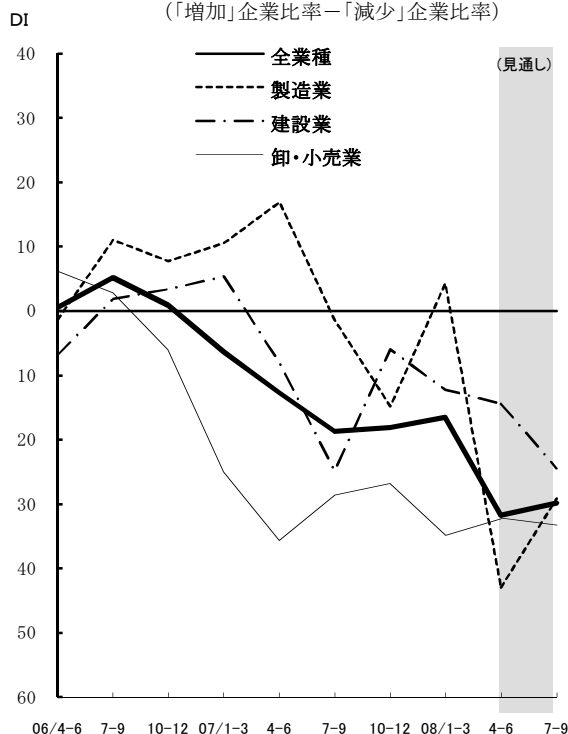
業種別にDIをみると、**製造業**で△29.1、**建設業**で△24.5、**卸・小売業**で△33.3となっており、4～6月期実績と比較して建設業と卸・小売業では下向く見通しとなっており、製造業が13.9ポイント上向く見通しとなっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI	
全業種	4～6月(実績)	4.7	20.6	17.7	40.2	16.8	-31.7	
	7～9月(見通し)	2.8	15.2	34.2	34.1	13.7	-29.8	
(製造業)	4～6月(実績)	5.6	12.5	20.8	50.0	11.1	-43.0	
	7～9月(見通し)	2.8	12.5	40.3	33.3	11.1	-29.1	
(建設業)	4～6月(実績)	2.0	30.6	20.4	28.6	18.4	-14.4	
	7～9月(見通し)	4.1	16.3	34.7	28.6	16.3	-24.5	
(卸・小売業)	4～6月(実績)	5.4	21.5	14.0	38.7	20.4	-32.2	
	7～9月(見通し)	2.2	16.7	28.9	37.8	14.4	-33.3	

売上・出荷動向(前年同期比)

(「増加」企業比率-「減少」企業比率)



(2) 生産高または仕入高

～ 製造業の生産高、卸・小売業の仕入高とも下向く ～

[4～6月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）では「増加」と答えた企業が23.9%（前期39.1%）、「減少」が52.1%（同34.7%）で、DIは△28.2（同4.4）と32.6ポイント大きく下降し、下向きとなっている。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は31.9%（前期29.2%）、「減少」が48.4%（同43.8%）で、DIは△16.5（同△14.6）と1.9ポイント下降し、下向きとなっている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）については、「増加」と答えた企業が19.7%、「減少」が47.9%であることから、DIは△28.2で、4～6月期実績と同じ見通しとなっている。

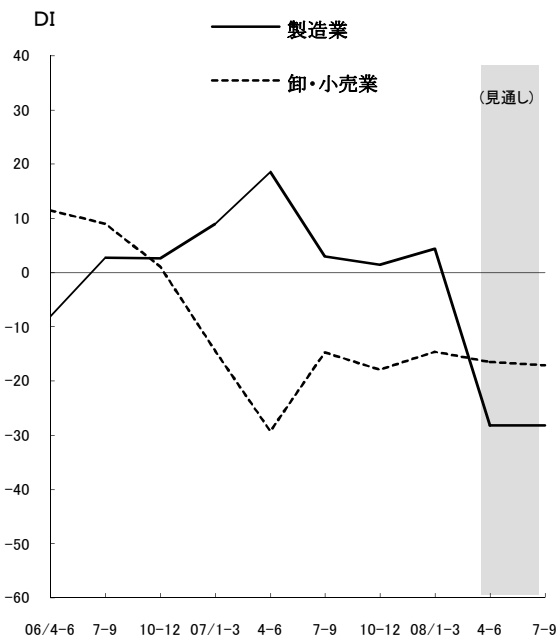
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が26.1%、「減少」が43.2%であることから、DIは△17.1となり、4～6月期実績と比較して0.6ポイント下向く見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
(製造業)	4～6月 (実績)	7.0	16.9	24.0	39.4	12.7	-28.2
	7～9月 (見通し)	4.2	15.5	32.4	36.6	11.3	-28.2
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	11.0	20.9	19.7	31.9	16.5	-16.5
	7～9月 (見通し)	10.2	15.9	30.7	30.7	12.5	-17.1

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率-「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 製造業の製品在庫上向き、卸・小売業の商品在庫下向き ～

【4～6月期の実績】 状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製
 が「増加」と答えた企業は17.7%（前期17.7%）、「減少」が33.8%（同35.3%）であること
 から、DIは△16.1（同△17.6）となった。また、原材料水準については、「過大」が
 12.9%（同16.1%）、「 」が72.6%（同67.8%）、「不足」が14.5%（同16.1%）である。

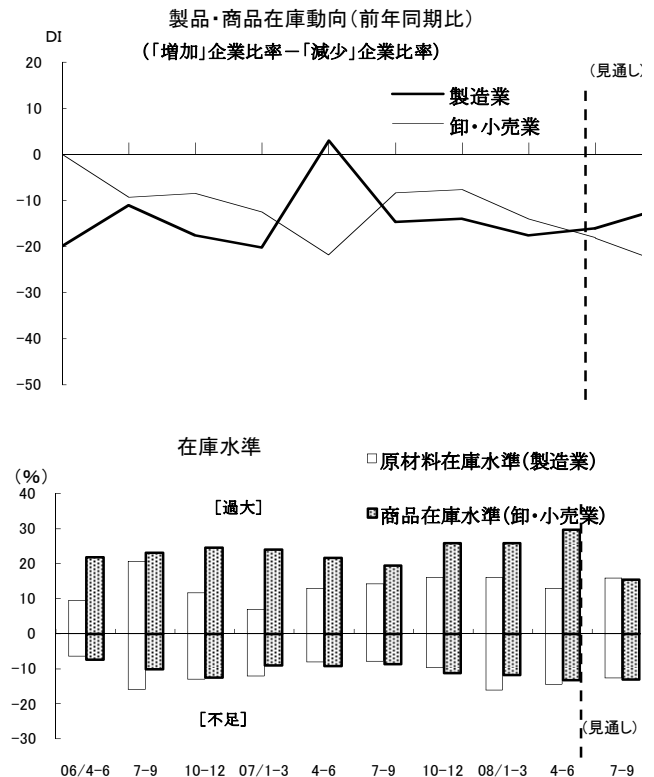
卸・小売業の は、「増加」と答えた企業が19.3%（前期17.6%）、「減少」37.5%
 （同31.7%）であることから、DIは△18.2（同△14.1）となった。また、 の水準に
 ついては、「過大」が29.8%（同26.0%）、「 」が57.1%（同62.3%）、「不足」が
 13.1%（同11.7%）である。

【7～9月期の見通し】 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製
 は、「増加」とみる企業が14.7%、「減少」が26.5%で、DIは△11.8となっている。また、
 同じく原材料水準については「過大」とみる企業が15.9%、「 」が71.4%、「不足」
 が12.7%である。

卸・小売業の については、「増加」とみる企業が10.6%、「減少」が34.1%である
 ことから、DIは△23.5となっている。また、同じく の水準については「過大」とみ
 る企業が15.6%、「 」が71.4%、「不足」が13.0%である。

製品・商品在庫(前年同期比)

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	4～6月 （実績）	1.5	16.2	48.5	27.9	5.9	-16.1
	7～9月 （見通し）	0.0	14.7	58.8	19.1	7.4	-11.8
（卸・小売業）	4～6月 （実績）	2.3	17.0	43.2	30.7	6.8	-18.2
	7～9月 （見通し）	1.2	9.4	55.3	28.2	5.9	-23.5



(4) 収 益

～ 6期連続で下向く ～

[4～6月期の実績] 収益 向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が15.1%（前期19.9%）、「減少」が60.9%（同53.6%）であり、D Iは△45.8（同△33.7）となり6期連続で下向いている。

業種別にD Iをみると、**製造業△32.0**（前期△17.2）、**建設業△38.8**（同△28.5）、**卸・小売業△60.5**（同△49.0）と全業種で下向いており、特に卸・小売業が△60台と低くなっている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が13.7%、「減少」とみる企業が56.0%であることから、D Iは△42.3で、4～6月期実績と比較して3.5ポイント上向く見通し。

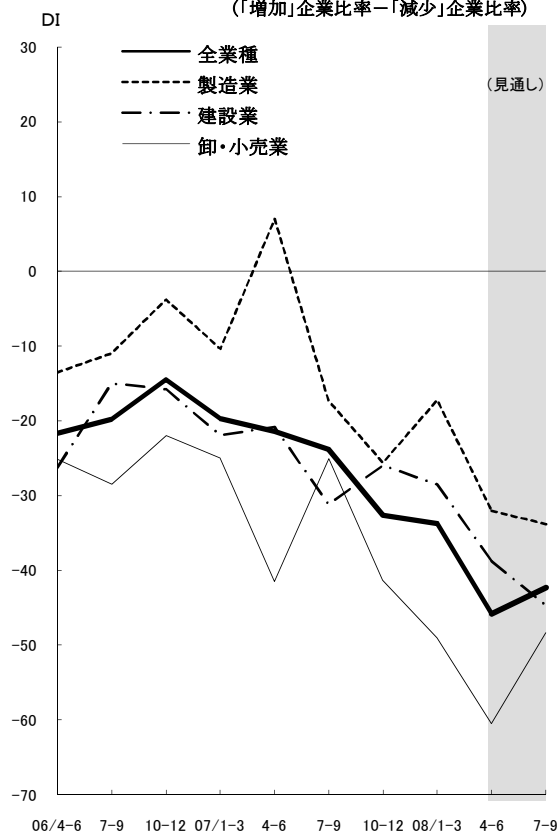
業種別にD Iをみると、**製造業は△33.8**、**建設業△44.7**、**卸・小売業△48.3**で、4～6月期実績と比較して、卸・小売業だけ上向く見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月 (実績)	1.9	13.2	24.0	40.1	20.8	-45.8
	7～9月 (見通し)	1.5	12.2	30.3	38.0	18.0	-42.3
(製造業)	4～6月 (実績)	0.0	20.8	26.4	36.1	16.7	-32.0
	7～9月 (見通し)	0.0	14.1	38.0	33.8	14.1	-33.8
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	20.4	20.4	30.6	28.6	-38.8
	7～9月 (見通し)	0.0	14.9	25.5	31.9	27.7	-44.7
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	4.4	3.3	24.1	48.4	19.8	-60.5
	7～9月 (見通し)	3.4	9.2	26.5	44.8	16.1	-48.3

収益動向(前年同期比)

(「増加」企業比率-「減少」企業比率)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 販売価格、仕入価格とも上向く ～

[4～6月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が38.0%（前期31.4%）、「低下」が23.5%（同19.4%）であることから、DIは14.5（同12.0）と上向きとなっている。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が67.8%（前期61.2%）、「低下」が10.4%（同6.3%）であることから、DIは57.4（同54.9）と前期から更に上向きプラスの高い水準で推移している。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が39.4%、「低下」とみる企業が19.7%であることから、DIは19.7で、4～6月期実績と比較して上向く見通しとなっている。

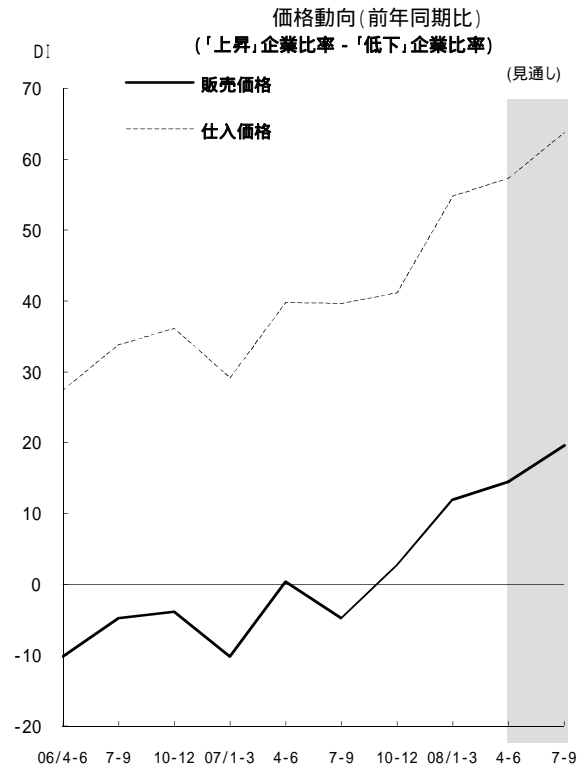
仕入価格については、「上昇」とみる企業が68.6%、「低下」とみる企業が4.8%であることからDIは63.8となり、4～6月期から更に上向く見通しとなっている。

販売価格(前年同期比)

		(%)					
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	DI
全業種	4～6月 (実績)	10.3	27.7	38.5	18.3	5.2	14.5
	7～9月 (見通し)	10.1	29.3	40.9	14.4	5.3	19.7

仕入価格(前年同期比)

		(%)					
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	DI
全業種	4～6月 (実績)	25.1	42.7	21.8	9.5	0.9	57.4
	7～9月 (見通し)	24.2	44.4	26.6	4.8	0.0	63.8



3.設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

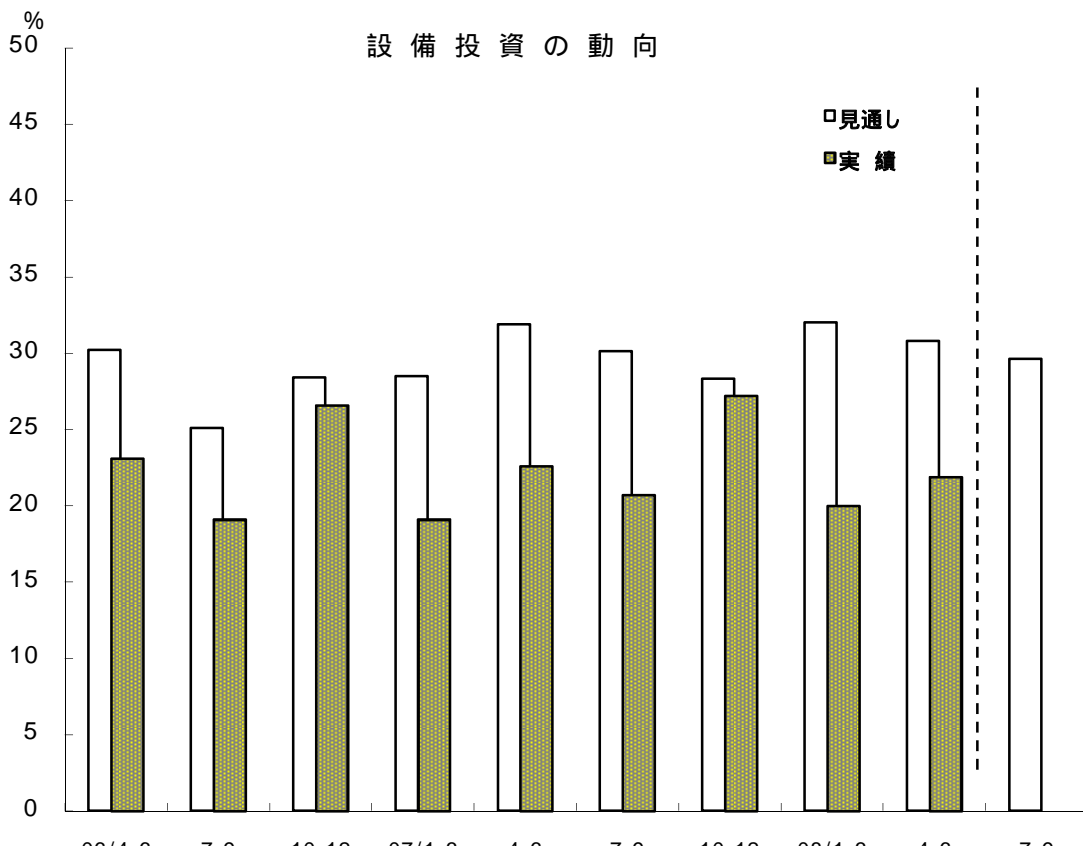
～ 全業種で上向く ～

[4～6月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は21.9%（前期20.0%）で、上向きとなっている。

これを業種別にみると、製造業が33.3%（前期32.8%）、建設業12.5%（同10.2%）、卸・小売業18.3%（同15.4%）と、全業種で上向いている。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で16.7%（前期17.1%）、「計画はあるが具体化していない」は12.9%（同13.7%）、「計画はない」は70.4%（同69.2%）であった。「計画あり」は合計29.6%（同30.8%）と前期予想とほぼ横ばいの見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で36.6%（前期46.3%）、建設業で16.4%（同16.3%）、卸・小売業で31.2%（同27.0%）の見通しとなっている。



(2) 設備投資の目的

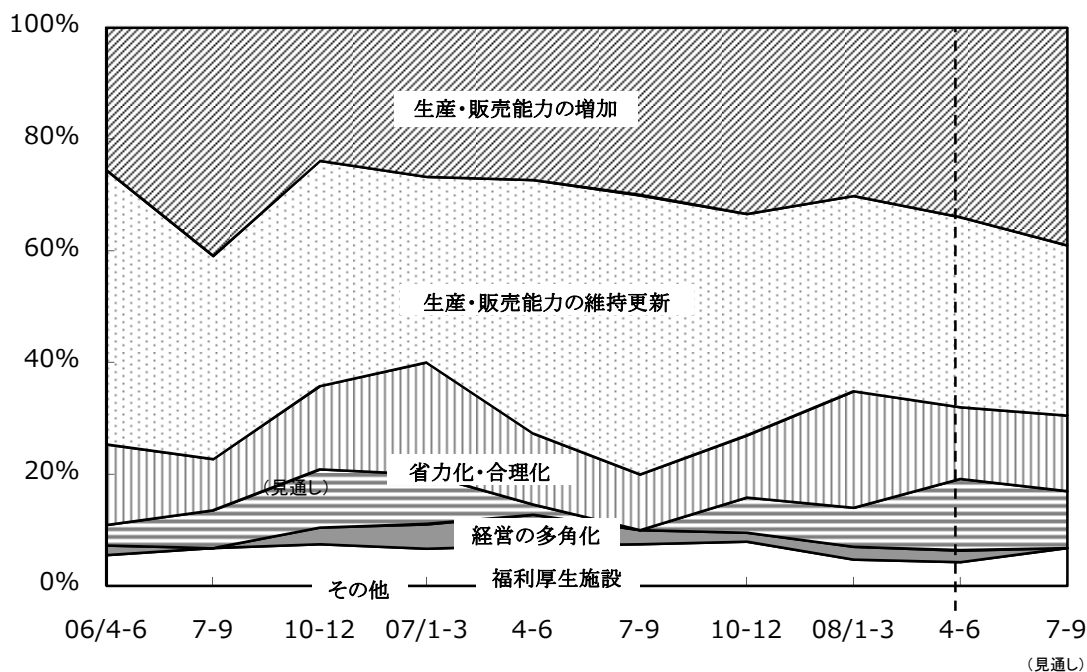
[4～6期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(21.9%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が34.0%（前期34.9%）、「生産・販売能力の増加」が34.0%（同30.2%）で同率でトップとなり、「省力化・合理化」「経営の多角化」が同率の12.8%で続いている。

業種別にみると、**建設業**は「生産・販売能力の増加」、**卸・小売業**で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、**製造業**では「生産・販売能力の増加」「生産・販売能力の維持更新」が同率でトップとなっている。建設業では「多角化」の比率も高い。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(29.6%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の増加」が39.0%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の維持更新」30.5%、「省力化・合理化」13.6%、「経営の多角化」10.2%の順となっている。

業種別では、**製造業**と**卸・小売業**では「生産・販売能力の増加」がトップとなっており、**建設業**では「生産能力の維持更新」がトップとなっている。製造業では「省力化・合理化」、建設業、卸・小売業では「多角化」も高い比率となっている。

設備投資の目的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 全業種で下向く ～

[4～6月期の実績] 資金繰り状況（前期比）は、全業種では、「楽になった」とする企業が8.4%（前期10.0%）、「苦しくなった」が37.4%（同33.5%）であることから、D Iは△29.0（同△23.5）と下向いている。

業種別にD Iをみると、**製造業**が△23.7（前期△10.0）、**建設業**が△30.5（同△27.7）、**卸・小売業**が△32.2（同△31.5）で、全業種で下向きとなっており、特に製造業は13.7ポイント下降している。

[7～9月期の見通し] 7～9月期の見通し（当期比）をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が5.7%、「苦しくなる」が36.9%で、D Iは△31.2となり、4～6月期実績（△29.0）と比較して、下向く見通しとなっている。

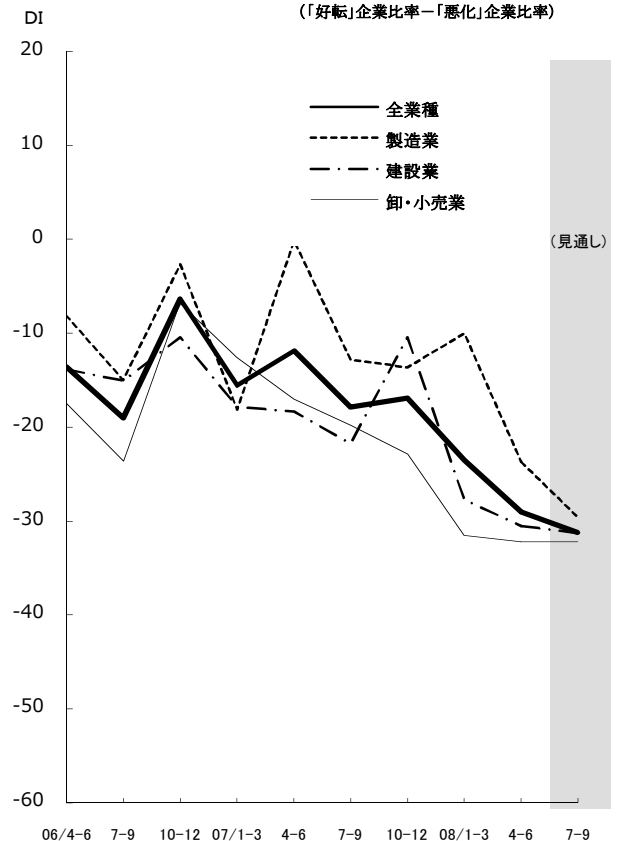
業種別にD Iをみると、**製造業**△29.6、**建設業**△31.3、**卸・小売業**△32.2となっており、4～6月期実績と比較して、卸・小売業以外下向く予想となっている。

資金繰り(前期比)

		(%)					
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	DI
全業種	4～6月 (実績)	1.9	6.5	54.2	26.2	11.2	-29.0
	7～9月 (見通し)	1.4	4.3	57.4	24.9	12.0	-31.2
(製造業)	4～6月 (実績)	1.4	9.7	54.1	29.2	5.6	-23.7
	7～9月 (見通し)	1.4	5.6	56.4	32.4	4.2	-29.6
(建設業)	4～6月 (実績)	4.1	4.1	53.1	22.4	16.3	-30.5
	7～9月 (見通し)	2.1	4.2	56.1	18.8	18.8	-31.3
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	1.1	5.4	54.8	25.8	12.9	-32.2
	7～9月 (見通し)	1.1	3.3	59.0	22.2	14.4	-32.2

資金繰り動向(前期比)

(「好転」企業比率-「悪化」企業比率)



(2) 現金・預金

[4～6月期の実績] 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が9.9%（前期10.9%）、「減少した」が47.2%（同43.6%）であることから、DIは△37.3（同△32.7）と下向きとなった。

[7～9月期の見通し] 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が5.3%、「減少する」が45.7%であることから、DIは△40.4（当期△37.3）と下向き予想となっている。

(3) 金融機関借入

[4～6月期の実績] 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が23.0%（前期23.7%）、「減少した」が27.3%（同27.6%）であることから、DIは△4.3%（同△3.9%）と下向きとなった。

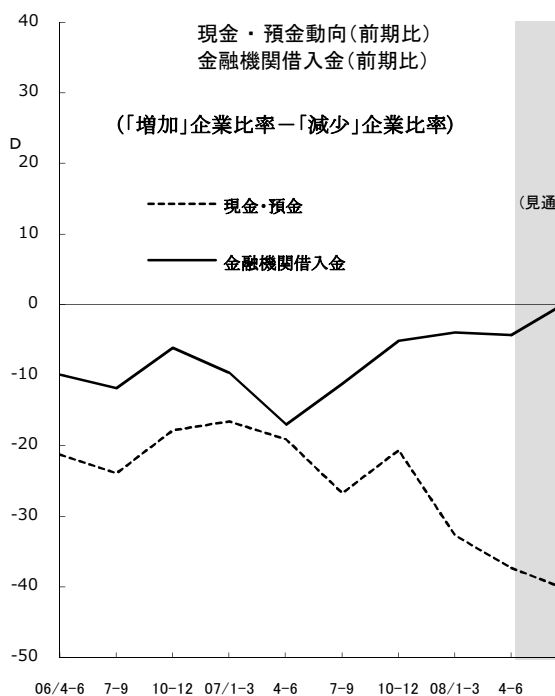
[7～9期の見通し] 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が18.2%、「減少する」が17.8%であることから、DIは0.4（当期△4.3）と上向き予想となっている。

現金・預金(前期比)

		（％）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	4～6月 (実績)	3.3	6.6	42.9	34.0	13.2	-37.3
	7～9月 (見通し)	1.0	4.3	49.0	30.3	15.4	-40.4

金融機関借入金(前期比)

		（％）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	4～6月 (実績)	5.3	17.7	49.7	22.5	4.8	-4.3
	7～9月 (見通し)	4.9	13.3	64.0	15.3	2.5	0.4



(4) 販売代金回収期間

[4～6月期の実績] 販売代金回収期間（前期比）については、「短くなった」とする企業が3.3%（前期2.9%）、「長くなった」が14.9%（同17.7%）であることから、D Iは△11.6（同△14.8）となった。また、81.8%（同79.4%）の企業は「変わらない」としている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「短くなる」とみる企業が2.4%、「長くなる」が13.4%であることから、D Iは△11.0（当期△11.6）となる。また、84.2%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

[4～6月期の実績] 仕入代金決済期間（前期比）については、「長くなった」とする企業が1.4%（前期1.4%）、「短くなった」が5.2%（同4.8%）であることから、D Iは△3.8（同△3.4）となった。また、93.4%（同93.8%）の企業は「変わらない」としている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「長くなる」とみる企業が2.9%、「短くなる」が3.9%であることから、D Iは△1.0（当期△3.8）となる。また、93.2%の企業は「変わらない」とみている。

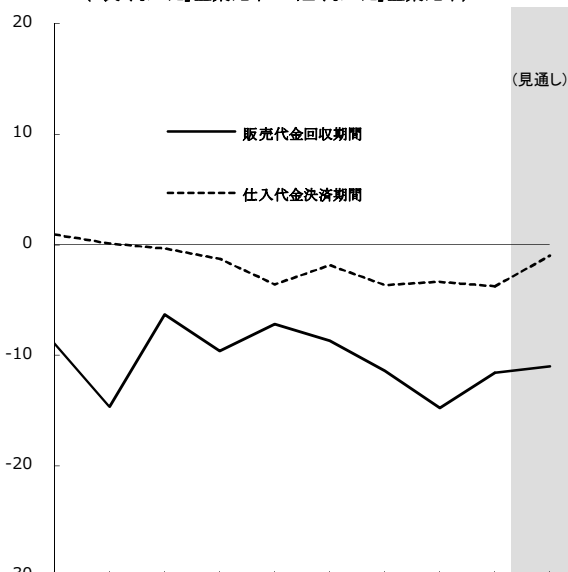
販売代金回収期間(前期比)

		（％）					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	4～6月 （実績）	0.5	2.8	81.8	12.6	2.3	-11.6
	7～9月 （見通し）	1.0	1.4	84.2	10.5	2.9	-11.0

仕入代金決済期間(前期比)

		（％）					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	4～6月 （実績）	0.0	1.4	93.4	3.8	1.4	-3.8
	7～9月 （見通し）	0.0	2.9	93.2	2.9	1.0	-1.0

販売代金回収期間動向(前期比)
（「短くなった」企業比率－「長くなった」企業比率）
仕入代金決済期間動向(前期比)
（「長くなった」企業比率－「短くなった」企業比率）



5. 経営上の問題点について

～ 製造業では「原材料・仕入価格高」が5期連続トップ ～

4～6月期における経営上の問題点をみると、**全業種**では「売上・受注不振」30.0%（前期27.9%）、「原材料・仕入価格高」21.8%（同21.4%）、「収益不振」13.1%（同13.8%）、「過当競争」12.6%（同12.8%）、「販売価格安」6.9%（同10.8%）の順となり、前期と同じく「原材料・仕入価格高」が2位となっている。

業種別に上位3項目をみると、**製造業**では①「原材料・仕入価格高」28.7%（前期33.3%）がトップとなり、②「受注不振」22.5%（同19.8%）、③「収益不審」「販売価格安」9.3%で同率。**建設業**では①「受注不振」31.9%（同30.9%）がトップとなり、②「原材料・仕入価格高」23.1%、③「過当競争」18.7%の順。**卸・小売業**では①「売上不振」34.9%（同32.7%）、②「収益不振」「過当競争」が14.9%で同率となっている。

いずれの業種とも「売上・受注不振」「収益不振」「過当競争」「販売価格安」が上位を占めているが、製造業では「原材料・仕入価格高」が5期連続でトップとなり、建設業、卸・小売業でも比率が高くなっている。

